

沖縄総合事務局

1 農畜産物の最新の生産状況

(1) さとうきび生産量は平年水準に回復傾向

26年産さとうきびは、台風8号(7/7~8)により沖縄本島、宮古島地方で倒伏、葉片裂傷などの被害が生じたものの、順調に回復傾向。一方、台風11号(8/7~8)により、大東島地方で折損等大きな被害が発生。また、八重山地方では、夏以降、少雨傾向にあり、一部の地域で干ばつ気味の状況。

県全体では、このまま推移すれば、不作となった前年産を上回り、平年(78万トン)に近い水準にまで回復する可能性。



【台風8号通過直後のさとうきび畑】



【通過後8日目の回復状況】

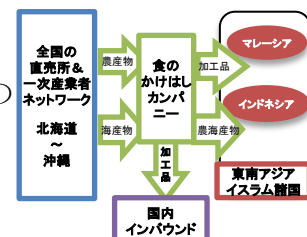
(2) マンゴー生産量は平年を上回る見込み

26年産マンゴーは、沖縄本島では、開花期間中の低温の影響により平年の8割程度、宮古・八重山地方では、果実の大玉化や収穫面積の増加により平年の1.6倍程度と見込まれ、県全体では、平年を8.2%上回る1,647トンとなる見込み。

2 攻めの農林水産業の展開に関する最新の動き

(1) アジア向けハラル和食のセントラルキッチン

(株)食のかけはしカンパニー(平成26年5月に(株)伊賀の里モクモク手づくりファーム等が設立。)は、うるま市の国際物流拠点産業集積地域にハラル対応の食品加工場を年度内に整備予定。全国から集めた農産物を原材料にハラル対応の和食惣菜のレトルトパックや食肉加工品、菓子類を製造し、当面は、国内の飲食店やホテル、テーマパーク等へ卸し、その後、東南アジアのイスラム諸国向けに輸出も行う意向。さらに、那覇空港の24時間発着可能な物流ハブを活用して、国産農海産物の輸出も併せて行い、沖縄を日本食の発信拠点としていく予定。



(2) 6次産業起業家を支援

名護市は、6次産業化推進の拠点としてインキュベート(新規事業支援)施設とレストラン等の観光施設が一体となった「なごアグリパーク」を整備中。平成26年3月に完成したインキュベート施設では、地元食材を使って6次産業化にチャレンジする農業者等を対象に、農畜産物加工用機械を含む入居施設(食肉加工用、ジャム・菓子加工用の2室)を3年間安価で貸与し、自立を促す。

現在、農業生産法人(株)クックソニアがハム、ソーセージ等を加工。10月には、(株)マキ屋フーズが入居し、マンゴーピューレ等を加工予定。



【インキュベート施設と機械】

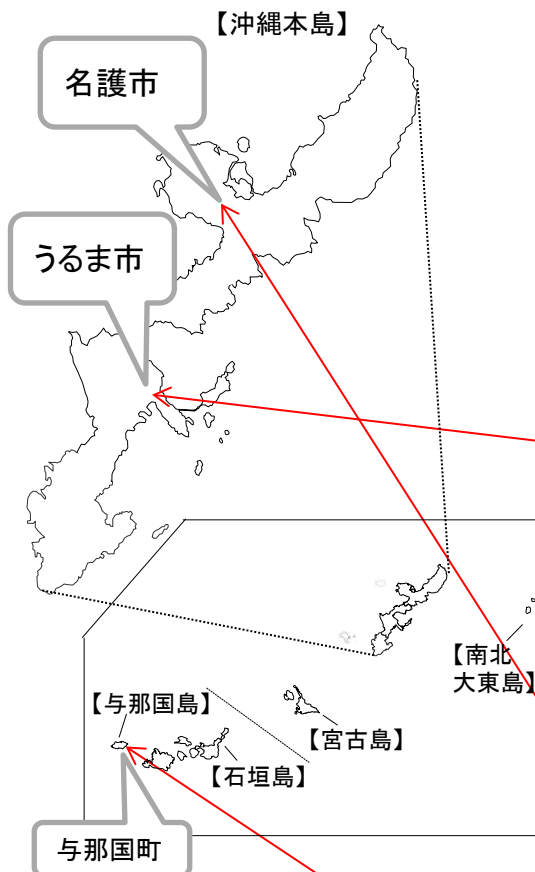
(3) 地域資源(長命草)を活かした地域活性化

与那国町では、古くから地域で食されていた薬用作物である長命草(ボタンボウフウ)で町おこしを目指し、若手農家が主導して経済栽培に成功。平成20年に、流通加工も行う農業生産法人与那国薬草園(株)を設立し、国の補助事業で一次加工施設を整備。健康食品の原料として大手化粧品会社と契約するとともに、生産組合の設立により生産拡大を図り、地域活性化に大きく貢献。



【長命草の栽培状況】

【契約農家(H20→H25:16→60戸),栽培面積(同:10→27ha),生産量(同:104→430t)】



【沖縄の農業・農村に関する指標】

・平成25年産さとうきびの生産実績
【68.3万トン】

・マンゴーの生産量の平年値
【1,522トン】※H20～H24の平均値

・六次産業化法認定件数
【54件】(全国1,919件の3%)※H26.6時点